

乾田直播ほ場で、「農地整備事業を契機とした水稲栽培の  
低コスト化に向けた現地視察研修会」を開催しました！

農地整備事業を導入する際は、「担い手となる農業者の米生産コストの低減」や「水稲から土地利用型園芸等の高収益作物への転換による農業所得の増加」を目指すことが国の方針で定められています。米の生産コスト低減手法の一つとして乾田直播栽培（※）が挙げられますが、北部圏域（大崎・栗原）農地整備事業実施地区の担い手では、知見や情報の不足や、未整備のため効率的な営農が困難である等の理由から、導入事例が少ない状況にありました。

そこで、平成30年5月2日（水）、当部と北部地方振興事務所農業農村整備部との共催で、担い手や土地改良区等関係機関が農地整備を契機とした米の生産コスト低減手法について知見を深めることを目的に、農地整備事業「青生地区」の集落営農組織であり乾田直播栽培に取り組んでいる「農事組合法人みらいす青生」のほ場で現地視察研修会を開催しました。

69名が参加した研修会では、みらいす青生の齋藤代表理事や若手職員から、地下灌漑（FOEAS）を活用した乾田直播栽培作業のポイントや機械化体系について説明をいただきました。また、「担い手への農地集積を進めることで機械の汎用化と乾田直播の導入が可能となり、結果的に米の生産コスト低減につながっている。今後も乾田直播栽培の規模拡大を図りたい。」と、熱い想いをお話いただきました。

参加された方々は熱心に説明を聞くとともに、乾田直播栽培による収量向上のポイントや地下灌漑の活用方法について積極的に質問をされていました。また、「米の生産コスト低減に関わる基礎知識を習得することができたので、今後自分達の地区で農地整備を導入していく際の参考としたい。」といった意見も出されました。

当部では今後も、農地整備を契機とした担い手への農地集積、米の生産コスト低減に向けた支援を関係機関と連携して行い、地域の核となる担い手の育成を図ってまいります。

乾直播種機械見学の様子



齋藤代表理事が地下灌漑（FOEAS）  
の活用方法について説明している様子



（※）乾田直播栽培とは、乾いた田んぼの田面2～3cm下に稲の種籾を播種する栽培方法のことです。通常の水稲移植栽培のように稲の苗をつくる必要がないので、代掻きや育苗等の春作業の省力化を図ることができます。